

佳作

地域の魅力

静岡県 葦山高等学校一年 高橋 こなつ

私は、一般的に田舎と呼ばれるようなところに住んでいます。コンビニまで歩いて三十分、最寄りのバス停までは歩いて十五分です。家の周りには畑、田んぼ、山が広がっています。人に「家の周りには何があるの?」と聞かれると「何もない」と答えるしかありませんでした。車がないと生活できないような不便なところだし、友達と遊びに行くところもありません。こんなところ、大人になったら出て行こうと思ったことも多いです。「何もない」と答えるしかないようなところにいる自分が嫌でした。そこで「はたして私が住んでいるところがいいところは無いのだろうか」と考えてみるようになりました。改めて考えてみると、私がまだこの土地の良さを知らないだけなのかもしれないと思いました。それならば、この土地にきつとあるはずのいいところを知りたいと思いました。

そこで、私が参加したのはティーンズデザインラボという活動です。これは地元の小中学生が自分たちの目で

見て取材したものをフリーペーパーにまとめるという活動です。記事を書くのももちろん、載せる写真を撮ったり、イラストを描いたりするのも自分たちでやります。この活動に中学校三年間参加しました。最初は取材先になるようなお店なんて無いと思っていましたが、自分が知らないだけで意外とたくさんのお店がありました。日常生活ではなかなか行けない旅館に行ったり、普段は入れないところに行ったりと貴重な体験をしました。地元に住んでいても、こんな機会が無ければなかなか行かないところがたくさんありました。高校生になった今、私は編集長として活動しています。あくまでも主役は小中学生なので、スタッフとしての活動です。夏休み中には、小中学生の取材に同行させてもらいました。私よりも小中学生の方がおもしろい質問をすることが多かったです。子どもならではの視点で気付くことがあり、大人たちだけでは見つけられない良さを発見できたと思います。

取材の中で私が感動したこと、それはこの地域に住む人がみんなこの土地を好きだということです。取材した旅館や宿泊施設は、みんなこの土地の豊富な自然を生かしているところばかりでした。都会から来ていただいたお客様にこの自然を味わってもらおうと工夫がされています。お料理に地元の食材を使うことや露天風呂などはもちろん、自然の景色や音を味わってもらえるように、

部屋にテレビが無いところもあります。この土地の良さを来ていただいたお客様に存分に感じてもらいたいという気持ちがこのようなサービスにつながっているのだと思います。まだまだ都会に憧れがある子も多いですが、こんなにいいところ他にないと言う大人もいます。この地域を好きな人がこんなにいる。ここはこんなにいい土地だったんだと感動し、嬉しかったです。

今では、私は自分が住んでいるこの地域が好きになりました。今までは身の周りにあったものを当たり前としかかわらず、そのありがたみを忘れていたと思います。山、畑があること。野菜が新鮮でおいしいこと。水道水がおいしいこと。騒音がないこと。地域ぐるみで仲がいいこと。家からでも星がきれいに見えること。よくよく考えてみれば、これは普通のことではありません。都会は遊ぶところやお店はたくさんありますが、この環境で暮らすことはできません。わざわざこの環境を求めて移り住んでくる人もいます。思えば父もこの地域の海のきれいを気に入って移住してきた人でした。そう思うと、私は失礼な事を思っていました。「何も無い」と答えていた自分が恥ずかしくなりました。そして、このタイミンで自分の住む地域の良さを知ることができて本当に良かったと思います。今では、大人になってもここに住んでいたいと思うし、この地域をもっとよくするために働きたいと思います。まだまだ魅力を知らない地元の人に

この地域の良さを伝えて、この土地が好きだという人がもっと増えてほしいです。